

親の代から続く交流30年

矢作川 上下流 根羽と安城市の中学生

根羽中学校1年生(10人)と愛知県安城市篠目^{ささめ}中学校1年生(9クラス、289人)が8日、今回で30年目となる節目の交流会を茶臼山(根羽村、愛知県豊根村)の安城市茶臼山高原野外活動センターで開いた。

篠目中は毎年、同所のテントに泊まって1年生が自然教室を開催。今回は7日から4泊5日の日程で、バスで訪れた。

開会式で根羽中から生シイタケやイチゴジャム、篠目中から名物のそうめんのプレゼント交換を始めた。

互いの学校紹介で学校目標や生徒会活動に

ついて発表。各種のゲームを行い、昼食はバーベキューを楽しんだ。合唱曲など歌の交換をした。

母親が2回目の交流会に参加したという根羽中の山崎亮太君(12)は「相手が自分たちのことを気を使ってくれ

てうれしかった」、篠目中で行事などの立案会長をしているタガミラフアンヘロ君(12)は「生徒の人数も違うけれど、ゲームで交流できて楽しい」と話していた。

交流会は愛知県との県境にあり、同市を流

れる矢作川の上流があることが縁。同市は同村の「矢作川水源の森」計画に協力して、1991〜2021年度までの30年間「山のオーナー」として、共同経営の「矢作川水源の森」分収育林事業をしている。



バーベキューをする根羽中と篠目中の1年生